



人形の寺とも呼ばれ歴史ある

宝鏡寺の「曙梅」の後継樹が里帰り —林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービス—

ポイント

宝鏡寺（京都市上京区）の「曙梅」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。このサービスを利用した宝鏡寺からの増殖の要請を受け、「曙梅」の後継樹としてつぎ木により増殖し育てた苗木が里帰りします。

○里帰り日時及び場所 日 時：令和3年12月2日（木曜日）13時00分～（雨天決行）
場 所：京都府京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町547

○里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 3本

お問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場
（平日 8:30～17:15）

事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 坂本 庄生（さかもと しょうき）

担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ（やまもと あゆみ）

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋（はやし かつひろ）

Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139

○宝鏡寺門跡

担 当 者：田中 恵厚（たなか えこう）

Tel・Fax：075-451-1550

本資料は、京都府政記者クラブに配付しています。

背景

全国には、学校や社寺など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、関西育種場では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りを行うサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。当育種場では令和 2 年度までに 98 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました。後継樹の苗木は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、二代目として成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、宝鏡寺の庭にある曙梅です。宝鏡寺は応安年間（1368～1375 年頃）に光厳天皇皇女華林宮惠厳禅尼公が創建・開山された臨済宗単位の尼門跡寺院です。寛永 21（1644）年に後水尾天皇皇女が入寺され、以後は歴代皇女が住持を勤めておられました。そのため宝鏡寺には由緒ある人形が数多く所蔵されており、「人形の寺」とも呼ばれています。通常は拝観できませんが、人形展（春・秋）と人形供養祭（秋）が行われ、その際は拝観可能です。

曙梅は光格天皇（在任 1780-1817）が命名された由緒あるウメで、早春に淡い桃色の優美な花を咲かせておりましたが、近年夏の暑さによるためか徐々に衰えが見られるようになり花の数が少なくなりました。令和 2 年秋には樹勢の衰えが顕著になり、後継樹の植栽を考えられた宝鏡寺より関西育種場に林木遺伝子銀行 110 番への申請要望がありました。同年 11 月に関西育種場職員が曙梅の状態を確認したところ、かなり弱っており、枝の伸びも悪い状況でした。

このため申請を受理し、令和 3 年 1 月に親木から枝（穂木）を採取し、春につぎ木による増殖を試みました。無事増殖に成功し育成管理した結果、野外に植栽しても生育できる見込みがたった 3 本の苗木を令和 3 年 12 月 2 日に里帰りさせることとなりました。

写真等

宝鏡寺の曙梅（親木）



採取した枝



里帰りする後継樹苗木



つぎ木成功後の状況

